

資料2

# 嶺北地域

～第1期産業振興計画（地域アクションプラン）の総括（案）～

# 1 各分野の取り組みの総括

## 農業

- 環境保全型農業などの先進的な取組が進められ、稲作経営を中心に中山間地域の特性を活かした米ナス、シシトウなどの園芸野菜（れいほく八菜）や花卉栽培（れいほく八花）が進められてきた。
- 有望な園芸作物（三色ピーマン）の推進、ブランド米・米粉・ユズの生産や加工・販売など、特色ある地域資源を活かした取組も本格的に動き始め、市場も県外に広がってきている。
- 一方、れいほく八菜の販売額、生産者数は、生産者の高齢化や後継者不足などにより年々減少していることから、担い手の発掘・育成に向けた新たなプロジェクトを平成23年度から開始し、地域の関係機関、農業者が一丸となって嶺北の園芸産地を維持していく取組を推進している。
- 新たな畜産業として取り組んできた「土佐はちきん地鶏」は、10万羽の生産に向けた施設整備が完了し、新たな雇用が生まれるなどの効果が出てきており、今後は、事業体の経営の安定化や生産・販売体制の強化が求められている。

## 林業

- 森の工場の更新・拡大に取り組み、平成23年度末で25団地9.6千haと民有林全体に占める割合は17.0%（H19:6.4%）と拡大してきている。
- 地域内に大型製材工場の進出が決定し、原木の増産・供給体制の構築が求められている。
- 木工製品の事業において民間事業体が起業し、嶺北材を使用した机・椅子やノベルティグッズの開発・販売を行うなど、嶺北材の新たな販路や雇用が生まれるなどの効果が出てきている。

商  
工  
業

- 大阪府豊中市にある土佐産直サテライトセンター（とさ千里）が、平成22年9月にリニューアルオープンし、嶺北地域の産品（産直野菜、米粉加工品等）を中心に県産品の販売を行い、地産外商の拠点として活動を展開している。
- 一方、同店の近隣には競合店舗が複数存在し、以前の顧客が回帰していないことなどから販売額が伸び悩んでおり、産直野菜の供給体制の構築、催事開催、県産品の掘り起し等の販売拡大に向けた取組を行っている。

観  
光

- 嶺北地域観光・交流推進協議会が、平成22年10月に設立され、町村の枠を超えて連携した取組の協議・検討・情報共有等を行うとともに、連携事業（観光パンフレットの作成、モニターツアーの実施、PR活動等）を開始している。
- 各町村では、地域資源（山岳、ダム湖、体験メニュー等）の磨き上げに取り組んでいる。
- 現時点では、こうした取組の成果が出るまでには至っておらず、継続した連携事業の展開が求められている。

共  
通  
の  
課  
題  
等

- 事業が動き出した中での共通課題
  - ・人材育成、担い手の確保
  - ・事業体の経営の安定化
  - ・販売戦略の構築など
- 今後の方向性
  - ・地域内での人材育成に加えて、交流や移住の取組の中での担い手の確保
  - ・産業振興アドバイザーの活用など

## 2 主要な指標及び目標に対する実績値

項目	目標	実績
「れいほく八菜」の販売額	H23：3.5億円	2.1億円
「れいほく八恵」のユズ加工品の販売額	H23：4.5億円	4.2億円
「れいほく八花」の販売額	H23：1.2億円	1.1億円
こうち型集落営農における担い手組織の農産物販売額	H23：1,300万円	1,762万円
米粉等の販売額	H23：7,000万円	5,886万円
碁石茶の販売額	H23：1億円	700万円
肉用牛の販売額	H23：3.3億円	2.65億円
「土佐はちきん地鶏」の出荷羽数	H23：10万羽	7.0万羽
間伐の実施面積	H19~23計：8,000ha	5,425ha
木材の素材生産量	H23：8.4万m <sup>3</sup>	6.2万m <sup>3</sup> (H22)
「れいほくスケルトン」の販売棟数	H19~23計：190棟	175棟(H19~22)
公共関連宿泊施設での宿泊者数	H23：10,000人	9,176人

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ①

#### ○ ‘れいほく’ ブランドの園芸産地の確立

#### No 1.れいほくブランドの園芸産地の確立

JA土佐れいほく（嶺北地域全域）

##### 【取組の内容】

- ◆「れいほく八菜」の生産技術の高度化
- ◆「れいほく八花」の生産拡大
- ◆有利販売に向けた販売戦略の展開  
※産振補助金を活用



##### 【主な成果】

##### ・販売額（れいほく八菜）

**3.0億円(H19) → 2.1 億円(H23)**

※生産者の高齢化や後継者不足により生産者数  
(284人(H19)→183人(H23)) 及び販売額が年々減少。  
新規有望品目（三色ピーマン）の導入推進等により  
21～23年度は、2.1～2.2億円と下げ止まりの傾向。

##### ・販売額（れいほく八花）

**1.1億円(H19) → 1.1億円(H23)**

##### ・れいほく 産品の有利販売

コープかがわ10店舗（H20は0店舗）に  
「れいほくコーナー」の開設

##### ・集荷体制の構築

直販集荷システムの開始(H21.10～)  
（土佐町）

##### 【課題と今後の方向性】

- ・農業担い手の発掘・育成（八菜）
- ・基幹品目（米ナス,シトウ,三色ピーマン）及び補完品目（マノアレス等）の栽培確立（八菜）
- ・高品質・安定栽培技術の確立（八花）
- ・ブランド化に向けたPR活動（八花）
- ・栽培講習会等による生産安定（有利販売）

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ②

5

#### ○ユズ加工の拠点化

No 2.ユズ産地の確立と加工拠点づくり  
嶺北地域果樹（ユズ）産地協議会、  
JA土佐れいほく  
（大豊町、本山町、土佐町）

##### 【取組の内容】

- ◆ユズの生産拡大と高付加価値化
- ◆ユズ加工施設・設備の整備（H23.3）  
搾汁ライン(800 t /年)、ジュース充填  
ライン(36,000本/日)の拡充  
※産振補助金を活用



##### 【主な成果】

- ・生産体制の増強
- ・ユズ加工品の販売額  
3.4億円(H19) → 4.2億円(H23)
- ・新規雇用 9人

##### 【課題と今後の方向性】

- ・衛生管理の徹底
- ・適正在庫の管理
- ・生産者価格の向上
- ・販売先の多角化



嶺北の良い水が生んだゆずジュース。



### 3 地域アクションプラン嶺北地域の主な成果と課題 ③

#### ○集落営農の推進

No 3.集落営農で元気な地域づくり  
吉延営農組合、伊勢川営農組合  
その他の集落営農組織等  
(嶺北地域全域)

##### 【取組の内容】

- ◆こうち型集落営農モデル組織の育成  
(吉延営農組合、伊勢川営農組合)  
生産基盤(共同利用機器、耕作道等)  
整備、園芸品目等の導入と定着
- ◆集落営農組織の育成



##### 【主な成果】

- ・農産物販売額  
吉延営農組合(こうち型モデル組織)  
150万円(H21) → 1,762万円(H23)  
※ブランド米を含む。
- ・集落営農組織数  
3組織(H20) → 8組織(H23)

##### 【課題と今後の方向性】

- ・集落営農をマネジメントできる組織内人材の発掘及び育成
- ・集落営農組織の育成及び継続性の確保
- ・地域資源(人材、農地、機械等)を活用した行動計画の作成及び実践

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題

④

7

#### ○米粉ビジネスの展開

No 4.米粉を活用したビジネスの展開  
JA土佐れいほく、米米ハート  
(嶺北地域全域)

##### 【取組の内容】

- ◆米粉ビジネスの展開（米粉加工品の開発、販路開拓）
  - ◆土佐産直サテライトセンター（とさ千里）での米粉ビジネスの展開
  - ◆“米粉の里”の展開
- ※産振補助金を活用



##### 【主な成果】

- ・米粉、米粉加工品の製造・販売の開始及び事業展開(H21.4~)
- ・米粉パン工房のオープン (H21.4~) 及び製造・販売、事業展開
- ・米粉・米粉加工品の販売額  
4,300万円(H21) → 5,886万円(H23)  
(うち、米粉パン約3,426万円)
- ・新規雇用 3人

##### 【課題と今後の方向性】

- ・米粉加工品の商品開発
- ・販路拡大（関西圏を視野）
- ・生産・営業等の体制強化
- ・販売戦略の構築





### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑤

#### ○米のブランド化

#### No 5.米のブランド化による稲作農業の展開

本山町特産品ブランド化推進協議会、  
本山町、(財)本山町農業公社  
(本山町)

##### 【取組の内容】

##### ◆米のブランド化の取組

機器整備、栽培基準の作成及び栽培指導、  
販売促進・PR活動の展開等

##### ◆お米の全国コンクールへの出品 ※産振補助金を活用



##### 〔主な成果〕

- ・ブランド米（土佐天空の郷）としての認知度の高まり
- ・生産者の意欲の高まり
- ・ブランド米（土佐天空の郷）の販路拡大・確保
- ・生産量  
66 t (2,200袋)(H21産米)  
→114 t (3,800袋)(H23産米)
- ・販売額  
2,214万円(H21産米)  
→4,800万円(H23産米の販売見込み額)
- ・「お米日本一コンテストinしずおか2010」で最優秀賞を受賞
- ・米食味分析コンクールで3年連続入賞

##### 〔課題と今後の方向性〕

- ・生産者と生産量の増
- ・直接販売の増等による生産者価格の向上

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑥

9

#### ○中山間地域の多角的なビジネスの展開

No6.(株)大豊ゆとりファームを核とする  
碁石茶等の地域資源を活用した産  
業再生への取組

大豊町、(株)大豊ゆとりファーム、  
大豊町碁石茶協同組合、  
東庵谷集落「せせらぎ会」(大豊町)

#### 【取組の内容】

- ◆遊休農地を活用したビジネスの展開
  - ◆野菜等の地産地消ビジネスの展開
  - ◆加工品づくりビジネスの展開
  - ◆ふるさと支援ビジネスの展開
- ※産振補助金を活用



#### 【主な成果】

- ・法人化（碁石茶協同組合：H22.4）による組織体制の強化
- ・碁石茶加工品（カートカン、ティーパック、せんべい等）の開発・販売による知名度向上
- ・集荷ルートの構築（5ルート）
- ・碁石茶販売額

**1,000万円(H19)→700万円(H23)**

※大手取引先との取引が見込めなくなったことにより、販売額が減少。

#### 【課題と今後の方向性】

- ・事業体の経営戦略の構築と実践
- ・加工品を含めた碁石茶の販路拡大
- ・作業受託による農地保全の推進
- ・集荷の拡大と町内外への販売拠点の確保

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑦

#### ○新たな畜産業の展開

#### No 10.土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開

大川村ふるさとむら公社、大川村、  
(株)むらびと本舗(大川村)

##### 【取組の内容】

##### ◆生産から販売の体制づくり

10万羽生産体制に向けた施設整備、  
販路開拓等  
※産振補助金を活用



##### 【主な成果】

- ・10万羽の生産体制（施設整備を含む）の整備(22年度末)
- ・認知度の高まり（販売増）
- ・生産羽数  
1万羽(H19) → 7.0万羽(H23)
- ・出荷額  
1,381万円(H19) → 1億2,138万円(H23)
- ・新規雇用6人（うち、ふるさと雇用6人）

##### 【課題と今後の方向性】

- ・高品質の10万羽出荷体制に対応できる職員の飼養管理技術の向上
- ・事業体の体制や経営基盤の充実
- ・食鳥処理施設の整備の検討

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑧

11

#### ○嶺北材の増産

#### No 11.間伐推進と木材増産による林業振興

森林所有者、森林組合、  
素材生産事業体、建設業者、  
自伐林家（嶺北地域全域）

##### 【取組の内容】

- ◆ 森の工場推進
- ◆ 林業事業体の育成
- ◆ 林業の担い手の育成確保



##### 【主な成果】

- ・ 森の工場の拡充（更新、拡大）  
11団地3.6千ha(H19)  
→25団地9.6千ha(H23)
- ・ 作業道開設の着実な実施(35,135m(H23))
- ・ 間伐（面積）  
1,103ha(H19)→1,143ha(H23)  
(H19～23計5,425ha)
- ・ 素材生産量（材積）  
7.5万m<sup>3</sup>(H18)→ 6.2万m<sup>3</sup>(H22)

※国有林における素材生産量が減少。

民有林は、森林資源の成熟に伴い、保育間伐から利用間伐へ移行したことにより増加

国有林 H18：2.5万m<sup>3</sup>→H22：0.5万m<sup>3</sup>

民有林 H18：5.0万m<sup>3</sup>→H22：5.7万m<sup>3</sup>

##### 【課題と今後の方向性】

- ・ 間伐、皆伐による木材増産  
森の工場の拡充、事業体の育成、  
担い手の育成確保、  
原木の増産体制（皆伐の推進）の強化、  
原木の流通体制（原木市場）の強化
- ・ 再造林の推進

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑨

#### ○嶺北材の販路拡大

No 14.木工製品の製造・販売による地域の活性化  
ばうむ合同会社ほか  
(嶺北地域全域)

##### 【取組の内容】

- ◆ 木工製品の企画・製造・販売
- ◆ 商品開発、販路拡大



##### 【主な成果】

- ・ 民間事業体の起業(H22.2に法人化)
- ・ 民間事業体のノベルティーグッズ等の開発・販売の事業展開が開始
- ・ 木工製品(机・椅子セット)販売数  
110セット(H19~20計)  
→H19~23の累積363セット  
※防災面に配慮した机・椅子の開発(H23)

##### 【課題と今後の方向性】

- ・ 販路拡大、PR活動の展開
- ・ 新たな顧客開発のための普及活動  
(木工教室、森林ツアー等)

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑩

13

#### ○地産外商の拠点づくり

No 19.土佐産直サテライトセンター  
（とさ千里（大阪））の活性化  
による地産外商の拠点づくり  
（株）とさ千里、JA土佐れいほく  
（嶺北地域全域）

##### 【取組の内容】

- ◆ 新店舗での事業展開  
（地産外商の拠点づくり）  
※産振補助金を活用



##### 【主な成果】

- ・ 関西における地産外商の拠点づくりが  
スタート(H.22.9リニューアルオープン)  
（嶺北地域やその他の高知県産品の販売  
拠点）
- ・ 米粉、米粉加工品の販売拠点としての  
活動
- ・ 販売額  
**8,147万円（H23）**

##### 【課題と今後の方向性】

- ・ 事業体の経営戦略の構築と実践による  
経営改善
- ・ 地産外商の拠点として店舗での県産品の  
販売拡大
- ・ 野菜供給システムの構築
- ・ 来客者数増に向けたPR活動の展開
- ・ サテライトセンター機能の充実・強化  
地域特産品、観光・交流等の情報発信

### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑪

#### ○広域観光の仕組みづくり

No 20. 嶺北地域の連携による交流人口の拡大  
嶺北地域観光・交流推進協議会等  
(嶺北地域全域)

##### 【取組の内容】

- ◆観光を軸にした地域間連携の仕組みづくり
- ◆4町村連携した事業の実施  
観光パンフレットの作成  
※産振補助金を活用  
モニターツアーの実施、PR活動の実施等



##### 【主な成果】

- ・嶺北地域観光・交流推進協議会の設立 (H22.10)
- ・4町村が連携した事業展開の開始
- ・宿泊者数  
8,975人(H19)→9,176人(H23)

##### 【課題と今後の方向性】

- ・4町村が連携した事業展開の継続・発展 (PR活動、周遊ルートの設定等)
- ・コーディネートする組織(人)の発掘

## 4 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用実績等

### 【活用実績】

平成21年度	4件	91,740千円	(農業2件、拠点ビジネス2件)
平成22年度	7件	164,881千円	(農業3件、観光2件、拠点ビジネス2件)
平成23年度	1件	24,490千円	(農業1件)
計	12件	281,111千円	(農業6件、観光2件、拠点ビジネス4件)

### 【雇用の創出（H21～H23年度）】

	H23年度実績 (H21・22の雇用の継続分を含む)	うち産業振興推進 総合支援事業費補 助金関連
地域アクションプランに伴う雇用の増加	46人	29人

地域アクションプランにおけるふるさと雇用事業の活用人数 30人